母性・小児・地域看護領域の合同授業の試み（第3報）

ー授業内容の改善にむけてー

夛田奈津子*　黒野　智子*　宮谷　恵*
入江　晶子*　小出芙美子**

*聖隷クリストファー大学看護学部
**聖隷クリストファー大学看護学部（非常勤）

The Challenge of Teaching a Combined Class of Maternity, Child, and Community Health Nursing Class (Report 3)

— For the Improvement of the Class Content —

Natsuko TADA　Tomoko KURONO　Megumi MIYATANI
Shoko IRIE　Fumiko KOIDE

Seirei Christopher College, Department of Nursing

抄　録

本学の3年次生を対象に、異なる看護学領域の関連性の認識と知識の統合を図るため、母性・小児・地域看護領域の合同授業を平成13年度より試みている。今年度は前年度までに残された課題を踏まえ、授業内容のスリム化を図ると共に事例や質問紙などの媒体の工夫を行った。その結果、3領域における関連性の認識と知識の統合・定着において有効性が示唆された。

キーワード：合同授業、領域間の知識の統合、母性･小児･地域看護学、育児支援

Ⅰ．はじめに

我々は平成13年度より、学生に領域の異なる看護学の知識、イメージの統合を図るため、母性・小児・地域の3領域での合同授業を試みた。平成13年度は、学生のこれら3領域の関連性の認識は、授業の前後で有意差が認められ、新しく試みた授業の有効性が示唆された。[1] 平成14年度は合同授業の内容を一部変更して実施した。その結果、授業前後で3領域の関連性の認識は有意に上昇したが、母子の保健・医療・福祉の知識については統計的に有意差が見られなかった。この原因としては、授業内容の濃厚さが考えられた。[2]

そこで今年度は授業をさらに工夫し、内容を厳選して減らし、合同授業を実施した。そして、学生の関連性の認識の変化と社会制度の理解度の変化から、今年度の合同授業の教育効果を分析したので以下に報告する。

Ⅱ．合同授業について

1．合同授業の取り組みの経過

我々が日常の授業を行う中で、学生がそれぞれの領域の教授内容を独立した別物であると捕らえ、知識の統合ができていないと思われることがあった。そのため学生に領域の異なる看護学の知識、イメージの統合を図るため、母性・小児・地域の3領域での合同授業という、他にほとんど例のない初めての試みを行うこととした。

平成13年度は、正常児と低出生体重児の母子（計2組）に対するそれぞれへの育児支援、および児童虐待の早期発見とその対応についての3つのテーマで、母性・小児・地域看護領域の3名の教員が同じ授業時間の中で、それぞれの看護領域の視点で関わる合同授業を試みた。その結果、学生のこれら3領域の関連性の認識は、授業の前後で有意差が認められ、新しく試みた授業の有効性が示唆された。

平成14年度は、平成13年度に取りあげた低出生体重児の育児支援の部分のみ内容を変更し、最近の不妊治療の影響で増加傾向にある双胎の母子への育児支援を新たに採り上げた（正常新生児1組、双胎1組）。そして学生が母性・小児・地域看護領域を関連付けて考え、3領域の知識を統合できるよう促すことを目的に、合同授業の内容をさらに工夫し実施した。その結果、授業前後で3領域の関連性の認識は有意に上昇した。しかし、母子の保健・医療・福祉の知識については、平均得点は上昇したが、統計的には有意差が認められなかった。

2．これまでの取り組みの課題と今回の工夫点

1）これまでの取り組みの課題

平成13年度の合同授業は3つのテーマで授業内容を構成したが、学生の自由記載の中に「かえって混乱してしまう」、「一度に行う内容が多くて理解しきれない」などの記述が見られ、3領域の関連性の認識は高まったものの知識の統合が定着したとはいえなかった。その理由として①合同授業が1回限りの授業であったこと、②授業の進行方法について、2組の妊産婦と乳児の参加があり、学生の興味の対象が分散したことが考えられた。また、その2組は授業の中で初めて妊娠・分娩・産褥期および育児期の経過を提示した事例（1組は正常児の経過、もう1組は低出生体重児の経過）であり、多くの新しい情報を基にその時間内にイメージ化を図る必要があったことも学生が「内容が多い」と感じ混乱した一因であったのではないかと考えた。更に、質問紙についても、「何回も同じ内容の質問紙に答

えるのが大変」といった学生の自由記載から、検討を要することが課題として残った。[3)]

平成14年度の合同授業でも平成13年度と同様の3つのテーマで授業を構成したが、平成13年度の課題を踏まえて、授業内容を工夫した。正常児と双胎の育児支援に関しては、合同授業前の「母性看護方法論Ⅱ」の授業の中で、リアルタイムに妊娠・分娩・産褥期の経過を追っていた学生にとって身近な事例を採りあげた。そして、実際に合同授業にその母子に参加してもらい、授業内容にも今まで学んできた知識を反復する内容を多く取り入れた。また、母性・小児・地域看護領域がそれぞれ関連していることや具体的な育児支援サービスを視覚的に理解できるように、合同授業以前に平成13年度の合同授業で使用した『一般的な母子の医療・保健サービスの一覧』の資料を予め配布し、妊娠・分娩・産褥・育児期のまとめの授業をおこなった。その結果、合同授業の感想について「3つの領域の関連性がとてもよくわかり面白かった」と3割の学生が記述していたが、ポジティブな意見も含めて3割以上の学生が「内容が多く疲れた・混乱した」と記述しており、統計的には、3領域の知識の統合も定着したとはいえない結果であった。このことから、授業に盛り込む内容のスリム化が課題として残された。また、質問紙の内容についても、表の中に医療・保健サービスを思い出して埋めていくだけではなく、事例を提示して学生がその事例に必要な医療・保健・福祉サービスを考えながら記載できるように工夫した。しかし、学生にとっては回答しにくいものであったことが課題として残った。[4)]

2）今回の合同授業の取り組みの工夫点

今回の合同授業では、平成13年度、平成14年度に実施した2回の合同授業での課題を踏まえて、

① 授業内容のスリム化を図りテーマを2点に絞る
② 合同授業実施前に各領域で実施していたテーマに関する授業内容を想起させるような事例や媒体の使用
③ 媒体の工夫
④ 回答しやすい質問紙の工夫

をおこなった。

今回の合同授業のテーマは、「正常な経過を追っている乳児と母親への支援」と最近社会問題として頻繁に取り上げられている「児童虐待」の2つに絞った。

合同授業実施前にも各領域で授業などに参加してもらっていた、学生にとって身近な事例を使用した。同時に、その事例を想起できるように、合同授業以前の「母性看護方法論Ⅱ」の授業の中で、その事例の背景や妊娠、分娩、産褥期の経過を写真スライドを使って提示するようにした。合同授業当日には、その母親と1歳5ヵ月の児に参加してもらい、母性看護領域の教員がその母親にインタビューし、今まで学んできた知識を反復する形式で授業を展開した。また、育児支援については母子の経過に沿って、それぞれの領域を担当する教員が担当領域の育児支援について説明した。また、母子健康手帳の交付の場面では、合同授業前の地域看護演習で実際に学生が行ったロールプレイを想起できるように、地域看護領域の教員が保健師として妊婦役の教員を相手に具体的な対応を演じて見せた。

「児童虐待」については、地域看護領域、母性看護領域のそれまでの授業の中では、虐待防止法についてなどトピックスとして簡単に触れているのみであったが、今回は合同授業前に「小児看護方法論」の小児のフィジカル・アセ

スメントの項目で、身体の虐待徴候について具体的に説明を行った。

乳児期の身体・心理の発達過程の説明では、視覚的に理解できるように、参加してもらった児の1ヵ月頃（写真）、3ヵ月頃（写真の代わりに「定頚」がわかるようなイラストを作成）、7ヵ月頃（「寝返り」「お座り」の写真）、10ヵ月頃（「はいはい」「つかまり立ち」の写真）、1才～1才半の頃（「歩行」「おもちゃで遊んでいる」写真）のスライドを作成して上映した。また、このスライドは、合同授業の中で、地域看護領域の教員が、地域で実施している乳幼児健康診査の説明のときにも上映し、観察のポイントを強調して説明した。

今回の合同授業の前後で実施した質問紙の知識の統合を問う部分の内容については、学生にぜひ理解して欲しい項目であり、授業の最後に強調するように繰り返し説明した。また、学生が同じ内容の質問紙に3回回答することの負担を軽減するため、欄外に記載した選択肢から正解を選ぶ方式とした（調査票2）。

Ⅲ. 研究方法

1. 対象

本学の平成15年度の3年次生109名。そのうち、男子学生は3名、女子学生は106名であった。出産・育児経験があると思われる学生はいなかった。

2. 調査方法

合同授業の10日前（以下1回目とする）、合同授業直後（以下2回目とする）、および合同授業実施より1週間後（以下3回目とする）の計3回にわたり、対象の学生に質問紙調査を実施した。各調査日とも20分程度の記述時間を確保した。

1）調査内容

以下の項目について質問紙調査を行なった。

(1) 母性・小児・地域看護学の関連性の認識：

今までの授業を通して学生が感じている母性・小児・地域看護学領域の関連性の認識の程度をVisual Analog Scale（調査票1参照）に記入してもらった。

(2) 関連性を認識した授業内容や場面：

1回目の調査では、母性・小児・地域看護学の関連性を認識した合同授業前までの授業や演習内容や場面、2回目の調査では今回の合同授業で関連性を認識した内容や場面、3回目の調査では、合同授業前までの授業や演習内容や場面と合同授業で関連性を認識した内容や場面について自由記載方法で記述してもらった。（調査票1参照）

(3) 経時的な母子の保健・医療・福祉サービスの理解：

妊娠期、産褥入院期、退院後1年6ヶ月までのそれぞれの時期に行われている具体的な看護援助や健康教育などの育児支援や乳幼児の成長発達段階について、欄外に記載した選択肢から正解を選ぶ方式とした。配点は12点満点とした。（調査票2参照）

(4) 合同授業についての感想：

2回目の調査で、合同授業の感想を自由記載方法で記述してもらった。（調査票1参照）

2）調査期間

1回目：合同授業実施1週間前の平成15年度11月10日の母性看護方法論Ⅱの授業終了直後に実施

2回目：平成15年度年11月20日の合同授業終了直後で母性看護方法論Ⅱの授業時間内に実施

3回目：合同授業を実施した1週間後の平成15年

度11月27日、3年次生が全員参加する臨地・臨床実習オリエンテーション時に実施

3）倫理的配慮

質問紙は無記名とし、学生には研究の主旨を文書と口頭で説明し、成績に関係しないことを約束した上で教員が退席した後に調査票に記載し、回収箱に入れてもらった。

3. 分析方法

1）母性・小児・地域看護領域の関連性の認識：（以下関連性の認識とする）

1回目～3回目の調査ごとにVisual Analog Scaleを計測し、それぞれの記述統計量を算出し、3回の平均値の差を対応のある一元配置分散分析により有意差の検定を行った。

2）経時的な母子の保健・医療・福祉サービスの理解：

妊娠期、産褥入院期、退院後1年6ヶ月までのそれぞれの時期に行われている具体的な看護援助や健康教育などの育児支援や乳幼児の成長発達段階についての学生の記載内容を、正しいものを1個1点で点数化してそれぞれの記述統計量を算出し、3回の平均値の差を対応のある一元配置分散分析により有意差の検定を行った。

尚、関連性の認識と**経時的な母子の保健・医療・福祉サービスの理解**のデータ分析にあたっては、統計パッケージSPSS10.1J Advanced Modelsを使用した。

3）関連性を認識した授業内容や場面：

1回目・2回目・3回目の質問紙に自由記載で記述してもらった、合同授業前と授業後の母性・小児・地域看護の関連性を認識した授業内容や授業場面についての記述内容を分類・集計し分析した。

4）合同授業後の感想：

2回目の質問紙に自由記載で記述してもらった、合同授業についての感想の記述内容を分類・集計し分析した。

Ⅳ. 調査結果

1. 回収率

質問紙の回収数と回収率は、1回目89例81.7%、2回目91例83.5%、3回目57例52.3%であった。

2. 記述統計量

1）関連性の認識

Visual Analog Scale計測値の平均は、1回目8.11、2回目9.10、3回目9.19であった。（表1参照）

表1　「関連性の認識」の記述統計量

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
1回目	89	3.8	10	8.11	1.45
2回目	91	0.5	10	9.10	1.40
3回目	57	1.3	10	9.19	1.37

2）経時的な母子の保健・医療・福祉サービスの理解について

妊娠期、産褥入院期、退院後1年6ヶ月までのそれぞれの時期に行われている具体的な看護援助や健康教育などの育児支援についての学生の記載内容の平均得点は、1回目7.33、2回目10.05、3回目9.12であった。（表2参照）

表2　「経時的な母子の保健・医療・福祉サービスの理解」の記述統計量

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
1回目	89	0	12	7.33	2.47
2回目	91	0	12	10.05	2.72
3回目	57	0	12	9.12	3.12

3）関連性を認識した授業内容や場面について

関連性を認識した授業内容や場面についての総回答数は、1回目が117、2回目が92、3回目が56であった。（すべて重複回答可であった）

1回目の記述で、最も記述が多かった内容は地域看護領域での「家庭訪問演習」を挙げたものが、48例（41.0%）であった。次いで、「共通または連続している対象や援助内容」を挙げたものが、26例（22.2%）であった。2回目の記述では、「合同授業内容」を挙げたものが最も多く、39例（42.4%）であった。ついで、「共通または連続している対象や援助内容」を挙げたものが、33例（35.9%）であった。3回目の記述では、「家庭訪問演習」を挙げたものが、16例（28.6%）であった。次いで、「共通または連続している対象や援助内容」を挙げたものが、15例（26.8%）であった。また、「合同授業」を挙げたものが9事例（16.1%）・「授業内容」を挙げたものが、9事例（16.1%）であった。（表3参照）

4）合同授業後の感想

2回目の質問紙に自由記載で記述してもらった、合同授業についての感想の記述があった質問紙は、64例であった。その64例を対象として分類・集計した。

合同授業の感想についてみると、「3つの方向からの授業でわかりやすかった」との記述に見られるような、合同授業に対して肯定的な感想（以下肯定的感想とする）を記述しているものと、「母性小児それぞれ進んでいくので流れがいまいち掴めずにいる」との記述に見られるような否定的な感想（以下否定的感想とする）を記述しているものに分かれた。肯定的感想を述べていたものは、49例（回答総数74）であった。否定的感想は、19例（回答総数20）であった。なお、同一の質問紙に肯定的感想と否定的感想の両方を記述したものや複数の回答があった。

肯定的感想の内容の分析結果は、『（合同授業は）わかりやすかった』と記述した学生が28例あった。『（合同授業は）わかりやすかった』理由については、「関連がわかりやすい」等の『関連性・役割』についてが11例、「パワーポイントがわかりやすかった」「事例を通しての育児支援がわかりやすかった」等の『教材の工夫』についてが6例であった。次に、多かった記述内容では、「様々な関連職種との連携について学べてよかった」等に代表される『発見・理解・わかっ

表3　学生が3領域に関連性があると感じたこと

回答内容	1回目 N=117	2回目 N=92	3回目 N=56
技術演習	15(12.8%)	4(4.4%)	1(1.8%)
家庭訪問の演習	48(41%)	8(8.7%)	16(28.6%)
合同授業内容	−	39(42.4%)	9(16.1%)
授業内容	16(13.7%)	6(6.5%)	9(16.1%)
共通または連続している対象や援助内容	26(22.2%)	33(35.9%)	15(26.8%)
課題への取り組み	3(2.6%)	1(1.1%)	1(1.8%)
同じ媒体を利用した場面	4(3.4%)	1(1.1%)	0(0%)
関連性はない	2(1.7%)	0(0%)	0(0%)
その他	3(2.6%)	0(0%)	5(8.9%)

（複数回答あり）

たこと』に分類される記述が10例であった。次いで、「バラバラだったものが一つにまとまった」に代表されるような『既存学習内容の整理統合』についての記述が7例であった。（表4参照）

表4 「合同授業の感想」肯定的内容（N＝74）

内　　容	数
理解しやすい	28
合同授業自体	5
教材の工夫	6
わかりやすかった	6
関連性・役割	11
発見・理解・わかったこと	10
関係機関との連携	5
その他	5
既存の学習内容の整理統合	7
合同授業継続希望	6
合同授業の評価	3
面白い・興味が持てた	2
既存の各授業の振り返り	2
その他感想	13
虐待について	3
教材について	2
母性・小児・地域の領域	1
その他	7
合同授業以外	3

（複数回答有り）

否定的感想の内容の分析結果では、「今回の授業は話す人が次々とかわるので、ちょっと混乱した」に代表される、『混乱した』との記述が8例、「話ばかりではなくて、何かビデオを用いたりしてほしい」に代表される『教材についての不満』が6例あった。（表5参照）

3. 対応のある一元配置分散分析結果

1）関連性の認識：

3回のVisual Analog Scale計測値の平均値について、対応のある一元配置分散分析により有意差

表5 「合同授業の感想」否定的感想（N＝20）

内　　容	数
混乱した	8
教材についての不満	6
授業の進め方についての不満	3
その他	1
合同授業以外	2

（複数回答有り）

の検定を行った結果（表6参照）、有意確率1%水準以下で有意差が認められ、合同授業の前後で関連性の認識に違いがあった。この結果をもとに、多重比較（表7参照）を行なった結果、1回目と2回目、及び1回目と3回目では有意確率1%水準以下で有意差が認められた。しかし、2回目と3回目では有意確率0.70で有意差が認められなかった。

2）経時的な母子の医療・保健・福祉サービスの理解：

学生の記載内容の平均得点（12点満点）についてみると、対応のある一元配置分散分析により有意差の検定を行った結果（表8参照）、有意確率1%水準以下で有意差が認められ、合同授業の前後で制度についての知識の深まりが見られた。この結果をもとに、多重比較（表9参照）を行なった結果、1回目と2回目、及び1回目と3回目では有意確率1%水準以下で有意差が認められた。しかし、2回目と3回目では有意確率0.08で有意差が認められなかった。

V. 考察

我々は平成13年度より継続して母性・小児・地域看護領域の連携を図り、合同授業を実施している。昨年度は統計的に異なる3領域の関連性の認識は有意に上昇したが、知識の統合につい

表6　「関連性の認識」の被験者内効果の検定

		タイプ III 平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
	球面性の仮定	55.70	2.00	27.85	12.62	0.00
	Greenhouse-Geisser	55.70	2.00	27.89	12.62	0.00
	Huynh-Feldt	55.70	2.00	27.85	12.62	0.00
	下限	55.70	1.00	55.70	12.62	0.00
誤差	球面性の仮定	247.17	112.00	2.21		
	Greenhouse-Geisser	247.17	111.84	2.21		
	Huynh-Feldt	247.17	112.00	2.21		
	下限	247.17	56.00	4.41		

表7　「関連性の認識」の被験者内効果の多重比較

(I)	(J)	平均値の差(I−J)	標準誤差	有意確率	差の95% 信頼区間	
					下限	上限
1回目	2回目	−1.15	0.28	0.00	−1.72	−0.59
	3回目	−1.26	0.27	0.00	−1.81	−0.71
2回目	1回目	1.15	0.28	0.00	0.59	1.72
	3回目	−0.11	0.28	0.70	−0.67	0.45
3回目	1回目	1.26	0.27	0.00	0.71	1.81
	2回目	0.11	0.28	0.70	−0.45	0.67

表8　「経時的な母子の医療・保健・福祉サービスの理解」の被験者内効果の検定

		タイプ III 平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
	球面性の仮定	223.82	2.00	111.91	13.84	0.00
	Greenhouse-Geisser	223.82	1.87	119.49	13.84	0.00
	Huynh-Feldt	223.82	1.94	115.63	13.84	0.00
	下限	223.82	1.00	223.82	13.84	0.00
誤差	球面性の仮定	905.51	112.00	8.08		
	Greenhouse-Geisser	905.51	104.90	8.63		
	Huynh-Feldt	905.51	108.40	8.35		
下限	905.51	56.00	16.17			

表9　「経時的な母子の医療・保健・福祉サービスの理解」の多重比較

(I)	(J)	平均値の差(I−J)	標準誤差	有意確率	差の95% 信頼区間	
					下限	上限
1回目	2回目	−2.75	0.48	0.00	−3.72	−1.79
	3回目	−1.82	0.60	0.00	−3.02	−0.63
2回目	1回目	2.75	0.48	0.00	1.79	3.72
	3回目	0.93	0.52	0.08	−0.10	1.96
3回目	1回目	1.82	0.60	0.00	0.63	3.02
	2回目	−0.93	0.52	0.08	−1.96	0.10

ては有意差が認められなかった。そのため今年度は知識の定着を図るために、合同授業に更なる工夫を加え、実施した。

その結果、各領域の関連性の認識についての変化を測定するVisual Analog Scaleの結果から、合同授業を実施したことにより、学生の母性・小児・地域看護領域の関連性への認識は高まったと言える。学生がその関連性をどの場面で感じたかをみたところ、合同授業実施前は演習等において援助技術の関連性を感じていた者が多く、教室での授業のみで感じた学生は2割弱ということで、やはり具体性の高い演習、実技演習などが関連性の認識には有効であると言えるであろう。

知識の定着を測定するための経時的な母子の保健・医療・福祉サービスについての質問紙調査の結果では、合同授業実施前と比較して、合同授業実施直後、1週間後いずれも平均得点は上昇し、統計的にも実施直後と1週間後について、実施前と比較して有意差が認められた。その理由として考えられることとして、一つ目に授業内容をスリム化し、事例も学生にとって身近な事例を用いたことが挙げられる。昨年度までは事例を2事例提示していたが、本年度より事例を正常な経過を追っている母子1組に絞り、その母子に合同授業実施前から母性と小児領域の授業の中に、妊娠中から出産後に至るまで数回にわたって参加してもらった。実際の事例にリアルタイムで接することにより、学生にとってより身近な存在となり、保健・医療・福祉サービスについても、より必要性の高い身近なものとして捉えられ、知識としても習得・定着しやすくなったと考えられる。2つ目には、今回の質問紙の特徴として、昨年度とは異なり、欄外に選択肢を準備し、そこから適切な保健・医療・福祉サービスや正常児の成長発達段階などを選ぶという、学生にとっても必須の知識を問うものとしたことが挙げられる。その結果、質問内容がより具体的かつ学生にとっても必要な内容となったことにより、回答しやすい質問紙となったのではないだろうか。

今回の調査では3回目の質問紙の回収率が合同授業実施前、直後と比較して、3割も減少している。これは、合同授業前と合同授業直後の調査は領域の授業時間内に実施しているが、合同授業後1週間の質問紙調査は3領域の授業時間を利用できず、臨地・臨床実習オリエンテーションの時間に実施している。そのため学生の興味が分散してしまい回収率が下がったものと考えられる。

また、合同授業の感想では、事例への育児支援を通して『関連性や役割』『発見・理解・わかったこと』『既存学習内容の整理統合』など約4割の学生が肯定的感想を述べており、身近な事例に対し様々な角度から育児支援を考えたこと、また虐待など社会問題にもなっている項目について焦点をあてて授業を展開したことにより、よりリアルに3領域の知識を統合して母子に関わり、保健・医療・福祉サービスを提供していくことの必要性を感じることが出来たのではないかと考えられる。また、否定的感想においては『混乱した』『教材についての不満』が意見としてあげられた。『混乱した』という感想については、より身近な事例を用い、内容についても厳選し必要最低限の情報にしたが、約1割の学生は、それでも情報が多いと感じている。今日の情報化社会においては、氾濫する情報を統合し、情報を取捨選択する能力が不可欠であると考えられる。日常の生活の中から必要な情報を取捨選択して自らの知識にできるような能力を向上させるための働きかけを今後考えていく必要があろう。『教材についての不満』に対して

は、プリントを見やすくするなど、今後も改善をしていく予定である。

以上のことから、今回の合同授業の試みは、学生の母性・小児・地域看護領域の関連性の認識と知識の統合を高めることに効果があり、意義があったと示唆された。しかし、約1割の学生において『混乱した』などの否定的感想がみられることから、今後合同授業を複数回に渡って実施するなど、更に授業の内容と教育効果の測定方法について改善し、継続していく余地があると考える。

引用文献

1）黒野智子，夛田奈津子，宮谷恵，入江晶子（2003）：母性・小児・地域看護領域の合同授業の試み(第2報)．聖隷クリストファー大学紀要，11，101-109.

2）黒野智子，夛田奈津子，宮谷恵，入江晶子（2002）：母性・小児・地域看護領域の合同授業の試み．聖隷クリストファー看護大学紀要，10，149-155.

3）前掲　1）

4）前掲　2）

参考文献

1）田島桂子，澤田秀一，高崎旦子，安孫子誠也，鈴木恵理子（1997）：新教育課程編成の意図とその展開．聖隷クリストファー看護大学紀要，5，135-144.

2）亀井智子，久代和加子（2001）：看護基礎教育統合型カリキュラムにおける老年看護学教育体系の開発と形成的評価．聖路加看護大学紀要，27，42-51

3）藤本栄子，黒野智子，谷口通英（1997）：妊婦理解のための授業の工夫．聖隷クリストファー看護大学紀要，5，51-66.

4）城島哲子，仲村秀子，中野照代，藤生君江，入江晶子，鈴木知代（2000）：地域看護学における「地区活動演習」の評価―記述的地区把握から仮説検証型調査への転換を通して―．聖隷クリストファー看護大学紀要，8，121-131.

調査票.1

質問1.　あなたは、**今までの授業を通して**、母性看護学と小児看護学、地域看護学は、どの程度、関連があると感じていますか？あなたが感じている「関連の程度」に相当する所に**縦線**をつけてください。

関連がない　　関連がある

質問2.　また、それは、今までの授業のどのような場面で感じましたか？

質問3.　その他、授業に関する感想をご記入ください。

調査票.2

表の中のカッコ（　）内にあてはまる適切な語句を下記より選びカタカナを記入してください。

一般的な母子の医療・保健サービス

		妊娠	出産	一ヶ月	二ヶ月	三ヶ月	四ヶ月～七ヶ月	十ヶ月～一歳～一歳半
施設	母性看護領域	・a（　　）（公費で二回受けれる。） ・出産準備クラス（母親学級や両親学級など）	・入院中:褥婦・新生児の観察、授乳援助（授乳指導、乳房マッサージ）、産褥体操 ・育児指導、沐浴指導退院後の生活指導など ・育児支援（母乳外来、電話相談など）	・１ヶ月健診（子宮の復古状態など） ・育児支援（母乳外来や電話相談など）				
施設	小児看護領域		・d（　　）	・1ヵ月健診（発育・発達健診・育児相談など）		・3～4ヶ月健診g（　　） ・h（　　）	・７ヶ月健診 j（　　）	・１０ヶ月健診 k（　　） ・１歳半健診 l（　　）
地域	地域看護領域	・b（　　） ・c（　　） ・出産準備教室 ・（妊婦訪問）	・e（　　） ・f（　　） ・育児相談事業		・乳児相談（前期離乳食教室など）	・i（　　）	・乳児相談（後期離乳食教室など）	
主な関係法規		☆あなたが知っている母子保健に関する法律すべてを記載してください☆						

ア：妊娠の届出　オ：予防接種（個別）　ケ：つかまり立ち、はいはい　ス：先天性代謝異常検査　チ：首がすわる
イ：出生届の提出　カ：家庭訪問　コ：田中・ビネー知能検査　セ：つま先歩きができる　ツ：追視をする
ウ：育成医療の申請　キ：妊婦健康診査　サ：母子健康手帳の交付　ソ：ボールを蹴る　テ：長谷川スケール検査
エ：予防接種（集団）　ク：寝返り、お座り　シ：養育医療の申請　タ：マルや四角が書ける　ト：歩行